

## 総合科学研究所だより

Research Institute of Integrated Sciences and Humanities

## 巻頭言

総合科学研究所長 洪谷 寿  
SHIBUYA Hisashi

平成29年6月28日に、越原学園と瑞穂区役所との連携協力に関する協定締結式が本学で行われました。既に、本研究所は、大学・短期大学部の先生方・学生たち、同窓会などのご協力のもと、幾つかの地域貢献事業を学外組織と共催で行ってまいりましたが、今回、総合科学研究所が、瑞穂区役所との地域貢献事業の窓口になるということで、瑞穂区役所からは、金田利之区長様をはじめ、区政部長、区民福祉部長、保健所長の方々が、本学からは越原もゆる理事長・学長、事務局長、財務課長、そして、私も総合科学研究所所長として締結式に参加させていただきました。その時提示されました資料によりますと、この協定は、「教育研究の充実及び学生の実践力の養成を図るとともに、女性が活躍できる個性豊かな地域社会の形成及び発展に寄与すること」が目的になっています。また、資料では、本学は1年間に、大学・高校・短期大学部等が担当して、瑞穂区役所と31種類、その他の組織と11種類の地域貢献事業を行っています。この事実を知り、その数の多さと活動の重要性を改めて認識いたしました。

本研究所が初めて地域貢献事業を行ったのは、現総研顧問である河村瑞江本学名誉教授が、平成18年度に、本学の同窓会キャリアネットワーク（もえぎ塾）が中心となり、卒業生の手作り作品展と小物バザーを、瑞穂通3丁目市場のブースで「いきいきみずほ」として実践されたことに始まります。平成20年度からは瑞穂児童館との共催イベントを、翌年の平成21年度からは瑞穂保健所との共催事業をスタートさせ、現在まで約10年間の実績を持っております。それらは全て、地域の方々に大変好評をいただいております。事業に賛同され参加される本学の先生方も年々増えています。主催する本研究所といたしましても大変喜ばしく思っております。

本だよりでは、1年間の機関研究の経過報告・研究成果、プロジェクト研究の経過報告・研究成果、新たな機関研究・プロジェクト研究の計画、大学講演会の開催案内とともに、本年度予定している地域貢献事業の内容を報告させていただいておりますので是非ご覧ください。

今回、本学における地域貢献事業の窓口が本研究所になることで、地域貢献事業の全体像を俯瞰することができ、今まで以上に充実した事業が展開できると考えます。また、多くの先生方のご尽力に寄ることが大きいことに、ここで改めて深く感謝申し上げ、今後とも総合科学研究所の活動に御協力いただきますようお願いいたします。

平成28年度  
「開かれた地域貢献事業」  
報告

## 名古屋市瑞穂保健所「若返りきらきらセミナー」を終えて

瑞穂保健所保健予防課 保健師 川端恵子

瑞穂保健所では、平成28年度に名古屋女子大学と共催で「若返りきらきらセミナー」を開催いたしました。この教室は、高齢者の認知症・うつ病を予防するための教室として平成21年度より開催しており、名古屋女子大学の教員の方等が講師として実施されております。毎年大変好評な教室です。

平成28年度は、平成28年11月から平成29年2月までの5日間コースで、60歳代から80歳代の31名の方が参加されました。内容は講話だけでなく、作品制作や音楽療法、調理実習などアクティビティーを取り入れた多彩な内容となっております。

具体的には、アイロンプリントを使ったオリジナルTシャツ作成、絵手紙教室、健康に過ごすためのストレッチ&エクササイズ、懐かしい童謡の歌唱、カラフルロールケーキ作りなど、気持ちが若

返るものばかりで、期間限定のキャンパスライフを満喫されてきました。絵手紙教室では「下手でいい。上手に描こうとしなくていいですよ」という講師の一言で、自分の思いを筆に込め、楽しそうな皆さんの様子が印象的でした。「カラフルロールケーキはお家でも作って、友達や誕生日会、孫に振舞いたい」、「教室に参加して積極的に外出するようになった」等々、参加をきっかけに今後の生活が豊かになることが期待できるような素敵な感想をいただいております。

近年高齢化が進み、高齢者を支える仕組みづくりをどうしていくかが模索されているところです。平成29年度は瑞穂区のオリジナル体操である「みずほ体操」を取り入れる予定でおります。今後も大学と保健所の協働により、地域の皆さんの健康づくりに寄与していきたいと思っております。



オリジナルTシャツづくり



絵手紙教室



ストレッチ&amp;エクササイズ



カラフルロールケーキづくり

平成28年度  
「開かれた地域貢献事業」  
報告

## 名古屋市瑞穂児童館 平成28年度の共催事業を終えて

瑞穂児童館と名古屋女子大学が協働事業を行うようになって9年がたちました。

28年度は幅広い年齢の子どもたちや保護者を対象とした12の講座とクリスマスイベントを開催し、沢山の方々に参加していただきました。どの企画も子どもたちの笑顔、保護者の子育ての力につながる内容ばかりで、毎年楽しみにしている方も多くいます。

児童館活動の大きな柱とも言える「子育て支援活動」に関するイベントでは、絵本を媒体としたワークショップや、スキニッパをとりながらの音楽うたあそび等、親子で共に楽しみ、コミュニケーションの大切さを伝えてくれました。また、学生のみなさんが子どもたちの遊び相手になってくれる傍で、お母さん達は日頃の悩みや思いを互いに話し合える時間もあり、実際に参加された方からは「ゆっくり過ごせて良いリフレッシュになりました」という声も多くいただきました。日頃子どもと1対1で過ごす時間がほとんどの中で、子どもと離れて客観的に我が子の育ちを受け止める時間というのは貴重な時間であり、同じように子育てをしているお母さん達と交流することで、自身の子育てを見つめなおす良い機会に繋がったようです。

子どもが中心となって取り組む講座も沢山企画していただきました。毎年大人気の料理教室では、見ても食べても楽しいカラフルなロールケーキ作りや、実際に一日の食事を作って必要なエネルギー

名古屋市瑞穂児童館 レクリエーションスタッフ 久保田真由

を理解するという学びの講座もあり、身近なものを使って作るおもちゃ作りでは、自分で考えながら作ることでそれぞれのアレンジが活かされ、楽しく科学を体験することが出来ました。どの講座も学生の皆さんが子ども一人一人についてくれたので、安全に楽しみながら最後まで仕上げる事が出来ました。楽しい場を提供するという事だけではなく、その場で学んだことや実践したことをその後も日常で広げていける内容ばかりで、児童館職員としても大変参考になったと共に、何よりも子どもたちの心に残る体験になったようです。

児童館の大きなイベントであるクリスマス会と児童館まつりでも名古屋女子大学の皆様のご協力は欠かせないものとなっています。クリスマスでは館外のイルミネーションから当日の内容まで季節を存分に感じられる工夫や、クラフト工作や体験要素も含んだクリスマスショー等対象問わず楽しめる企画が盛りだくさんでした。リピーターも多く、子どもたちにとっても特別なイベントとなっています。児童館まつりでは春光会の方による食育相談の場が設けられ、日頃の悩みや疑問を気軽に話せる空間を作っていただきました。

毎年、先生方や学生さんたちの素敵なアイデアが詰まった企画を考えていただき、地域の皆さんと同様に児童館もとても楽しみにしています。そしてさらに地域の方たちに喜んでもらえるよう、また、新しい発見や経験の場として発展していけるよう、これからも共に考えていきたいです。



マザリーズ教室



ちょうどよい食事量



アニメーションをつくらう



クリスマスパーティー

## 機関研究

## 「幼児の才能開発に関する研究」

～絵本の読み語り～

今年度の研究は、昨年度に引き続き、「豊かな言葉の獲得—絵本の読み語りを中心として」という主題で進めています。読み語りを一つのアプローチとして、人とかかわり方やコミュニケーション能力の育ちを探っています。この育ちを、言葉による意思疎通を欠くために起こるトラブルの回避やクラスの安定に繋げること、さらに豊かな人間関係の形成を目指して取り組んでいます。

第1回研究会では、昨年度の絵本を通じたクラスごとの実践について話し合いました。平成30年には、幼稚園教育要領が改定されます。その中で、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として、

「言葉による伝え合い」の絵本や物語に親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付ける重要性があげられています。そのことを再確認すると共に、幼稚園のカリキュラムを見直し、その中から子供の生きる力の育ちを求めていくことを考えています。

幼児保育研究グループ



研究会議

(文責：森岡とき子)

## 機関研究

## 「大学における効果的な授業法の研究⑦」

～学生が主体的に学修する力を身につけるための教育方法の開発～

遠山佳治(代)・市村由貴・佐々木基裕・渋谷 寿・白井靖敏・杉原央樹・竹内正裕・豊永洵子  
羽澄直子・服部幹雄・原田妙子・野内友規・山田勝洋・三宅元子・吉川直志

平成27年度～平成29年度の本機関研究では、中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学～」の中の「主体的な学修を確立」させることを主眼に置いています。研究1年目の平成27年度に実施しました「主体的な学修および学習に関する調査」「大学での学びに関する調査」を、平成28年度に分析を進め、『総合科学研究所』第11号に「学生の主体的な学びに関する調査結果」として報

告しました。

研究3年目の平成29年度は、佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』（玉川大学出版部）をテキストと定め、各学科・教員において学生を主体的に学修させるための授業の具体的な工夫に関して検討を重ね、研究としてまとめ上げていきたいと思っております。

(文責：遠山佳治)



## 機関研究

## 「創立者越原春子および女子教育に関する研究」

佐々木基裕(代)・河合玲子・遠山佳治・豊永洵子・藤巻裕昌・三宅元子・吉川直志・吉田文

本研究は平成28年度～30年度の3年間にわたって行われるものです。本年度は、その2年目に当たります。越原春子先生の建学の精神、教育理念を日本の女子教育史の中に位置付けていく共同研究と、それを視野に入れた各メンバーの専門分野に基づいた個人研究を同時並行に進めています。

共同研究においては、学校情報の整理を目的とした関連教職員へのインタビューを計画しております。これまでに『学園七十年史春風』等を資料として整理を進めてきた情報を基として、更に詳細な

女子教育の歴史叙述を目指しています。

個人研究に関しては、毎回2名ほどの担当者が、自らの専門性に基づいた研究報告を行っております。旧制高等女学校から、戦後の短期大学、大学へと移行した本学の変遷を念頭に置きながら、教育学、歴史学、音楽学、体育学、社会学等のメンバーが有する専門性を活かし、学際的な観点から研究を進展させています。

(文責：佐々木基裕)

## 機関研究

## 「食と健康に関する研究」

駒田格知・伊藤美穂子・小椋郁夫・久保金弥・高橋哲也・田辺賢一・山中なつみ・山田久美子

最近、国の“国民の健康の維持”に関わる基本的な政策の一つである“食育”の推進に重点が置かれるようになってきました。本学でも“健康の促進”を重要視する方向での新学部・新学科の設立が計画されています。さらに昨年度2月中旬には越原記念館において、本学の食物栄養学科と日本歯科大学との共催で“咀嚼に関するシンポジウム”が行われました。

この様な背景のもと“食生活”の教育・研究に伝統のある本学に

ついて“食育”について様々な方向からの知識や技術を集約して、将来への方向性を吟味してみることが重要であると考え、食育という領域で整理を進めていきます。

今年度は各研究メンバーの専門を生かし情報をまとめ、次年度には研究成果を冊子にまとめて、近隣の小中学校等に配布し、積極的に活用したいと考えています。

(文責：駒田格知)

## プロジェクト研究

## 「新教育課程に向けた音楽カリキュラム構築と教育法の確立」

稲木真司(代)・佐々木基裕

学習指導要領はこれまでおよそ10年おきに改訂されてきましたが、ついに今年の3月に新しい学習指導要領が公示されて、6月には学習指導要領の解説も出されました。義務教育における音楽の授業で学ぶ内容は、学習指導要領や解説に述べられていますが、これまでの音楽科の指導要領には、それらの内容をどのように教えればよいのかを具体的に示すメソッドロジーは示されていませんでした。今回示された新しい指導要領についても、同様です。本研究で

は、現場において音楽を教える教師にとって必要となる音楽的内容を論理的に系統立てて、容易な内容から段階的に難しい内容へと連続的に教える方法を明らかにしていきます。今年の8月には国際コダイ協会国際シンポジウムがカナダのアルバータ大学で開催されるので、世界各国の音楽教育者が集まるシンポジウムに参加し、それぞれの国でどのような教育実践が行われているのかを学び、また日本での実践例を発表する予定です。(文責：稲木真司)

## プロジェクト研究

## 「子どもの表現と創造性を育むアート教育の指導法の開発」

松田ほなみ(代)・伊藤理絵・河合玲子・神崎奈奈・白石朝子・山本麻美

本研究では、感性豊かな子どもを育むための教育的プログラムの開発を目指し、「子どものアート教育」という視点から、造形表現と音楽表現の垣根を越えた「表現」領域の指導法を研究しています。学生の5領域における「表現」に対する理解や学生の感性・創造性が指導授業の前後でどのように変化したのかを検証するために、現在、昨年度までの「表現」に関わる科目に対する授業評価について分析しています。6月に開いた勉強会では、分析結果から

モデル授業案について検討し、今後の研究計画を具体化しました。音楽・美術の専門教員に加え、子ども学・心理学の専門教員による勉強会は、とても充実しており、毎回、新しい発見があります。今後は、「幼児教育・保育における子どものアート教育の現状」および「保育内容の指導法と評価方法」についてまとめる予定です。また理論的な整理を行った上で、子どものアート教育の視点を取り入れたモデル授業を実施したいと考えています。(文責：松田ほなみ)

## プロジェクト研究

## 「子どもの主体性を尊重した保育実践の研究Ⅲ」

吉村智恵子(代)・荒川志津代・宮本桃英・小泉敦子・安田華子

本研究は、保育者が記述した保育エピソードを様々な視点から分析すること、及び乳児をもつ母親に対するインタビューによって得た養育エピソードに対する分析を通して、乳幼児及び保育者・養育者の主体性について研究を進めてきています。

今年度は、保育エピソードを新たに追加収集し、それらを保育場面や乳幼児の年齢により分類し、保育者—乳幼児間に見られる相互関係をエピソード別に分析しています。これらの保育エピソード

を、保育職に就くことを志す学生が、現場での乳幼児理解、保育者の保育行動及び意図などについて学ぶ教材として作成していくことに取り組んでいます。試作したものを授業等で使用しながら、学生が保育エピソードを通して考察を深めることの有効性を確認し、学生の学びに活用できる教材として検討を重ねる計画です。

また、母親の主体性についても、昨年度に続いてさらなる分析を進めていきます。

(文責：吉村智恵子)

## 開かれた地域貢献事業 平成29年度事業計画紹介

本研究所では瑞穂児童館および瑞穂保健所との交流事業を企画・運営しています。これらの事業は毎年高く評価して頂いていると共に、講座は年々数が増え、また内容も益々充実したものになっています。今年度の学内公募では過去最多の応募数となり、大学内での地域貢献への意識が高まっていることを強く感じます。瑞穂児童館との交流事業は9月からスタートし、3月までの全13講座と12月のクリスマスイベント5講座を開催します。瑞穂保健所との交流事業は、今年度も一般介護予防事業への支援として65歳以上の一

般の方々を対象に運動・認知予防・口腔・栄養の4つのテーマに沿って「若返りきらきらセミナー」を10月から全6回で開催します。事業は家政学部、文学部、短期大学部の教員および多くの学生の有志の協力によって、特色ある大学での研究を基にした幅広い分野の楽しい講座となっています。本年度もこれらの地域貢献事業の講座にご期待下さい。

(文責：吉川直志)

## 大学講演会のお知らせ

### 演題 モチベーションの理論と授業への応用

講師

佐藤浩章氏

(大阪大学 全学教育推進機構 准教授)

日時

平成30年2月9日(金) 10:00~12:00

場所

学校法人越原学園 記念館ホール



総合科学研究所の機関研究「大学授業法7」では、「学生が主体的に学修する力を身につけるための教育方法」をテーマとし、学生を主体的に学修させるための授業の具体的な方策について検討をすすめております。

そこで、本年度の講演会では、高等教育開発がご専門でFDの第一人者でいらっしゃる大阪大学全学教育推進機構の佐藤浩章氏をお招きし、学生へのモチベーション（動機づけ）についてご講演いただきます。講義においては知識の定着が主たる教育目標となります。そして、知識の定着にはモチベーションの向上と維持が不可欠です。先生には、心理学、経営学におけるモチベーション理論をご教授いただき、授業での応用についてご講演いただきます。

#### 略歴

佐藤浩章（さとう ひろあき）1997年北海道大学大学院教育学研究科・修士課程修了、2002年北海道大学大学院教育学研究科・博士後期課程単位取得退学。博士（教育学）。同年4月より愛媛大学大学教育総合センター教育システム開発部講師・准教授、教育・学生支援機構教育企画室准教授・副室長を経て、2013年10月より現職。専門は、高等教育開発、技術・職業教育学。近著に『大学のFD Q&A』（2016、編著）、『大学生の主体性を促すカリキュラム・デザイン』（2016、編集代表）、等。

### 今年度(H29年度)運営委員

委員長

森屋 裕治  
MORIYA Yuji  
(短期大学部)

伊藤 充子  
ITO Mitsuko  
(文学部)

河合 玲子  
KAWAI Reiko  
(短期大学部)

羽澄 直子  
HAZUMI Naoko  
(文学部)

山田 久美子  
YAMADA Kumiko  
(家政学部)

### 研究所メンバー

所長

渋谷 寿  
SHIBUYA Hisashi

顧問

河村 瑞江  
KAWAMURA Mizue

主任

吉川 直志  
YOSHIKAWA Tadashi

教授

越原 一郎  
KOSHIHARA Ichiro

職員

寺島 まり子  
TERASHIMA Mariko

職員

牧野 弘実  
MAKINO Hiromi

### 編集後記

ここに総合科学研究所だより第25号をお届けいたします。大学では教育と研究が両輪となって進むことで成果が現れます。本研究所でも研究を推進し、その成果は教育として、そして地域貢献として波及しています。大学での研究活動の広がりをおのたよりから感じて頂ければ幸いです。ご執筆頂きました関係者の皆様には感謝いたします。地域貢献事業では多くの先生方にご参加頂き、さらに本年度の事業にも更に多くの先生方にご協力頂けることとなり感謝いたします。研究所の事業や研究の果たす役割は益々大きくなっています。今後とも、総合科学研究所の活動にご期待頂き、ご協力をお願いいたします。

(文責：吉川直志)